

古刻新韻

輯本
五日

茶式湖月抄
上

〔目〕
湖月老隱

浙江人民美術出版社

古刻新韻

輯本
五
日本

浙江人民美術出版社

茶式湖月抄
上

〔目〕 湖月老隱 著

出版說明

「古刻新韻」叢書輯錄歷代版畫精品，以小精裝、珍賞版的形式展現版畫之美。版畫是中國傳統藝術的重要品種，反映中國歷代禮制、名物、科技、文學、藝術等，是「美麗中國」圖像庫建設的重要內容。中國的雕版印刷術很早就傳到了日本並產生了深遠的影響，而明代大量書籍繪本畫譜流入日本，更是極大刺激了日本本土版畫的發展。將日本版畫納入「古刻新韻」，一方面便于讀者欣賞日本版畫藝術之美，另一方面無疑能夠為讀者瞭解日本提供更多的原始信息，畢竟版畫包羅萬象，舉凡生活、藝術、文學、名物等無不有所表現。「古刻新韻」五輯精選日本古代內容經典、版本精良、畫面美觀的版畫呈獻給讀者，在數字讀圖背景下使讀者感受圖像的神韻與魅力。

「古刻新韻」五輯收入木村孔陽等《賣茶翁茶器圖（外三種）》《含》《製茶之圖》《煎茶圖式》《茶瓶四十三品》、湖月老隱《茶式湖月抄》，和泉屋彌四郎《插花初學》，松日庵之至等《遠州流活花初學（外三種）》《含》《插花忘草》《松月堂百瓶》《生花獨稽古》，小野蘭山、島田充房《花彙》，橘保國《畫本野山草》，片山直人《日本竹譜》，岡田玉山等《唐土名勝圖會》，大蘇芳年《月之百姿》等十五種，內容涉及茶道、花道、圖譜等。

自徑山茶東傳，茶藝在日本大為光大，發展出茶道一脈，既紹繼中國舊制，又自出心裁，別成風味，這從《賣茶翁茶器圖（外三種）》《茶式湖月抄》即可見一斑。日本獨特的自然風貌造就了其獨具一格的欣賞自然的審美趣味，在中國花藝及名物圖譜的影響下，花道流派蔚成大觀，植物圖譜層出迭現，《插花初學》《遠州流活花初學（外三種）》《花彙》《畫本野山草》《日本竹譜》是為代表。《唐土名勝圖會》一書則傳寫清代京城、直隸一帶風物，風土人情、山川景物悉入筆下，所引國人詩作亦多稀見，足資研究兩國文化交流。而《月之百姿》則代表了日本浮世繪的一個面相，管中窺豹，亦可知其大概。

此次古刻新韻日本專輯的印行，希望讀者由此版畫書刻世界而見東瀛文化之美，于茶花竹景中體會浮世百態，品味日本舊時月色而領會其空寂幽玄之魅，加深對日本近日藝術源頭的體悟，以資參證中日兩國茶藝、花藝和山川名物圖譜之異同。

明治十六年十月補彫

湖月老隱著

茶式湖月抄

京都

細川開益堂藏

目 録

茶式湖月抄初編	一
茶式湖月抄二編卷上	二二九
茶式湖月抄二編卷下	二九一
茶式湖月抄三編卷上	三七三
茶式湖月抄三編卷下	四六一
茶式湖月抄四編卷上	五三九
茶式湖月抄四編卷下	六一一
茶式湖月抄五編卷上	六九三
茶式湖月抄五編卷下	七六一

茶式湖月抄

目次

茶之原始 初丁

喫茶大概 八丁

露地大概 十八丁

器物大概 廿三丁

千家系圖 廿八丁

茶之驗效 六丁

草庵茶味大概 十二丁

草庵大概 廿二丁

交會大概 廿六丁

風爐五德 附灰

透木爐 スギキブロ

薄茶 ウスチャ

花 ハナ

炭寸法 スミサウダウ

茶筌 チャセン

筒茶碗鹽筍 フ、チャワン、シロ

藥罐片口 ヤ、シロ

爐五徳ニヶ所 ロゴトリ

炭 スミ

濃茶 コイチャ

茶巾 チャキン

帛鈔 フ、サカ

大蓋釜 フタ、カマ

釣瓶水指 ツリビン、ミヅサシ

大口オホクチ

真手桶マテバケ

平水指ヒラミヅサシ 割蓋割盆

曲水指マゲミヅサシ

長緒茶入ナガオチチャイル

以上初卷目錄以下終卷目

丸卓マルダシ

四方棚ヨウハウナ

江岑棚エサミナ

袋棚フクロナ

三種棚サンシュナ

高麗卓コリアダシ

桑小卓サコダシ

紹鷗棚ショウウナ

道幸ダウシラ

大板オホイタ

臺子ダイミ 爐風爐ロフロ

四疊半ヨチフハシ 左右

向切ムカフキリ 左右

虱爐シラロ 左右

中置ナカオキ

旅簞タビタン 筥ス

長板ナガイタ 爐風爐ロフロ

大目ダイメ 隅棚スミテ

隅爐スミロ

向板ムカイタ ニツ置オキ 同 ニツ置

長板ナガイタ ニツ置オキ 同 ニツ置

竹臺子タケダイス一ツ置オケ

大板中置オホイタナカ

爐ロ四疊半流シヨウハンナガ鏑カサリ

古風コフウ点テン

句切逆勝手流クキサカサテナガ点テン

利休好真臺子リキウヨシマシノダイス

竹臺子タケダイス

桑臺子クサダイス

紹鷗棚セウオウタナ

袋棚フクロタナ

利休形四方棚リキウカタヨハタタナ

利休形角棚リキウカタスミタナ

丸卓マルダツ

桑小卓 サコツク

江岑棚 エジナ

三重棚 サンサナ

利休形旅簞笥 リキョウカタクニダン

道幸 ミチコウ

大目向二重棚 ダイメムキニサナ

一重棚 イツサナ

宗旦板風呂 ソウタンイタフロ

利休爐縁 リキョウロ

同覆 オホヒ

同蓋 ドウカイ

利休竹繫 リキョウタケキ

仙叟竹繫 センソウタケキ

路次之事ニ附コト數寄屋水屋ス

晝茶湯ヒルチャウ

夜咄ヨ

曉茶湯アサキチャウ夜込トモ云

朝茶湯アサキチャウ

飯後シゴ菓子茶湯ゴトモ云

跡見アトミ

一客イツキヤク

四ッ組茶入ヨツクミチャウ

手瓶テビン酌附ショクツク
水滴スイツ油滴アブ

耳附茶入ミミツクチャウ

目次終

茶原始

上古茶といふもの三種^{サンシュ}のうち漢土^{カンド}の書^{ショ}に及^{およ}ぶところ其中^{ナカノ}の
 苦茶^{クチャ}といふもの今^{イマ}茶^{チャ}なりと其餘^{コノ}の二種^{ニシュ}は蕪穢^{ウエ}乃^ナ草^{クサ}
 といふ堪^タて食品^{シヨクヒン}小^コに^{イセツ}一^{イチ}説^{セツ}古^コ其^シ菜^{サイ}と食^{シヨク}せ^セ故^コに
 茶^{チャ}字^ジ立^タべ^ベも^モい^イて詩經^{シキヤウ}に語^ゴ小^コも出^{イデ}又爾雅^{ニカ}に茶^{チャ}と檟^カ
 と出^{イデ}る是^レと飲^{キン}と^{カンビ}漢土^{カンビ}小^コても中^{チュウ}古^コより事^{コト}も
 漢^{カン}の代^ヨに司馬相如^{シハサウジヨ}楊雄^{ヤウユウ}等^ナ茶^{チャ}と名^ナづ^ヅくとも精^{セイ}

ついでハ聞えび三國サンゴクの時代具章曜茶コノツネカウチャと好コノ孫皓茶ソニカウチャと

代カヘて賜タマヒてて又々晋王濂人シンノワタダウ至イタま茶と飲ノミむ故事コシ

魏晋ゲイシンの頃ヨより漸行ヤ、オミナとてついでツグ其後唐タウの玄ゲン

示シ入寶羊ホウヤウ中茶仙陸羽チヤセンリクウ世ヨ出イデ肅宗代宗ソウソウ間朝野テウヤ

父フと茶經チヤキウと著アツ一烹點ハウテンは法則ハフソクと立器タチウキと製セイ一水味スイミ

吟インぜり天下テンカの人茶飲チヤインの清雅セイガをもと賞習イウシユせしとて

風流盛人フウリウセイナとなり宋ヤウの代ヨ至イタツて太祖開寶年中タイソウカイホウネン弥イミと

さうふーと丁謂蔡襄大小龍團の製出明朝に至る

芽茶を用ひ團茶廢まるとも其外漢土よての

すに悉く舉盡し且委く辨しるとも無益乃勤

それとて御國にてい

嵯峨天皇の御宇弘仁六年四月近江國志賀の崇福

寺に御幸し給ひ次は梵釋寺に齋與と停めらる時

大僧正永忠自御茶と煮て奉りてとて

茶式明司少上